

---

# 弘徽殿太后の煩悶

くれさと史香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

弘徽殿太后の煩悶

### 【Nコード】

N3365M

### 【作者名】

くれさと史香

### 【あらすじ】

かつて権力の中枢にいた女性。その回想と警告。

## (前書き)

注意 光源氏の君が好き、という方には不快な表現があります。ご容赦を。

大臣の一の姫として生まれ、桐壺帝の一の宮（朱雀帝）・姫宮を産み参らせた、わたくし弘徽殿太后が、いったいどんな悪事を働いたと人は誹るのだろうか。

定めを大きく変えたのはやはり、桐壺の更衣とその子、二の宮（光源氏）の存在だと言えよう。低い身分に関わらず帝の寵愛を独占したかの女は、二の宮が幼い内にその生を終えた。

更衣の死について、蔭で人はさまざまに噂した。噂自体は後宮ではよくある駆け引きの一つに過ぎぬことだ。大貴族の姫に生まれ、未来の国母となる事を期待されて育ち、わきまえていないはずが無い。

わたくしには背負う一族がある。かの女とは違うのだ。

光源氏は本当に憎らしい。そして危険極まりない男だ。

朱雀帝の御世を祈る、神聖な存在の賀茂の斎院（朝顔の姫君、源氏のいとこ）と文を遣り取りしてただけでなく、わが妹六の君（朧月夜の尚侍、朱雀帝の寵妃）との縁談を断った上での密通などなど 思い出しても腹が煮えるというものだ。

なんの因果か、母のこの煩いを朱雀院は無視し続けている。あるうことが、準太上天皇の地位にまで登りつめた源氏と仲が良く、何かにつけご相談なされているようだ。忌々しい。

「我が俣も程ほどになされて下さい、母上」とは、院の口癖であるが、瑣末な事ではないか。生み参らせた宮さまたち 息子、娘のため、わたくしはひたすらに生きた。口惜しくも権勢から外れた今、やっと自由なのだから。

（あなたさまも、いずれお解かりになられますよ朱雀院。親の辛さと、かの男の本性がね）

（終）

(後書き)

【謝辞】この作品を、Mさん（了解を得ていないので、仮名）に捧げます。

拙作「桐壺更衣」への貴方の感想がなかったら、この作品は完成すらしなかったと思います。

余談：弘徽殿さま、位のつけ方に非常に迷いました。

女御 皇太后 太后 と変遷。

桐壺の更衣も、おそらくは「御息所」の方が正しい気もするのですが、すわりが悪い(?)のでそのままに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3365m/>

---

弘徽殿太后の煩悶

2010年10月10日02時39分発行